

[展示室便り④]

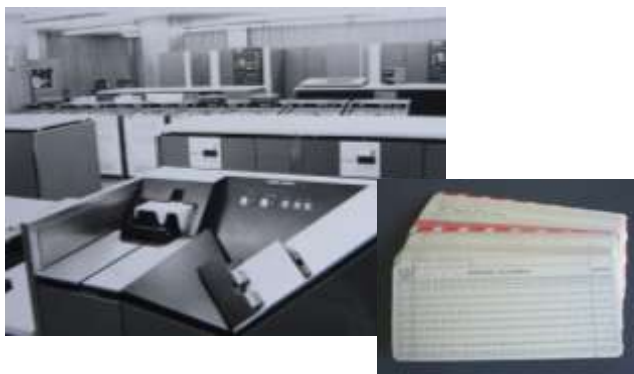
## NEAC シリーズ 2200



展示品 1 計算機室



展示品 2  
磁気テープ装置とディスクパック装置



展示品 3 カードリーダ装置とパンチカード



展示品 4 ラインプリンタ装置と連続紙



展示品 5 TSS 端末



展示品 6 SSL 説明書

今回は、大型計算機センター発足時に導入された日本電気(株)製 NEAC シリーズ 2200 です。センターで使用した計算機は、このシリーズのモデル 500(1969 年~1971 年)とモデル 500/700(1971 年~1976 年)でした。これらの計算機は、1 語が 48 ビットで構成され、浮動小数点は指数部 12 ビット、仮数部 36 ビットで表現しました。利用形態はバッチ処理と会話処理(TSS)でし

た。東北大学ではセンター発足時から TSS（タイムシェアリングシステム）サービスを計画し、その成果について大泉充郎初代センター長は大型計算機センター「十年史」の中で、以下のようなことを書かれています。

TSS の利用の発展は誠に目覚ましいものがあり、遠隔 5 大学(弘前、岩手、秋田、山形、福島)は勿論、青葉山、更にセンター内端末機に迄利用者が殺到し、TSS はパンク状態になることが多く、利用者からの苦情が多くなった。しかし、TSS は東北大に定着し、計算機利用の一形態としての地位を得、・・・。

展示室には、計算機の部品に関するものは保存されておりませんが、当時の計算機室の様子を写した写真、プログラムとデータの入力のために使用したパンチカード、計算結果を印刷した B4 版の連続紙が展示されています。

展示品 1 はモデル 700 を設置した計算機室の全景です。手前左右の装置は操作卓でオペレータがここからシステムの操作をします。中央奥の装置は、CPU とメモリが組み込まれた中央処理装置群です。展示品 2 は、奥の列がおなじみの磁気テープ装置、その手前の洗濯機に似た物は磁気ディスクパック装置です。現在はパソコンなどに組み込まれハードディスクと呼んでいるものです。展示品 3 の写真は、カードリーダ装置とパンチカードです。カードリーダ装置の右側にカードを積み、読み込まれると左上に出てきます。この時代は、プログラム 1 行を、パンチカード機で一枚のカードに作り入力媒体としました。展示品 4 はラインプリンタ装置（中央の 3 台）と実行結果を印刷した連続紙です。この装置は、連続紙、インクリボン、金属の活字ドラム、金属のハンマーにより高速に印字するものです。印刷時には凄まじい音が発生しました。展示品 5 は速度が 50 ボーの TSS 端末機です。展示品 6 はライブラリー・プログラム説明書 SSL 数値計算編（1）、（2）です。大型計算機センター発足時、センター教職員と利用者の協同により NEAC シリーズ 2200 で使用するライブラリを開発・登録し、利用者へ提供いたしました。それが科学計算サブプログラムライブラリ SSL (Scientific Subprogram Library) です。展示品は、つぎのシステムであった ACOS 時（昭和 59 年 3 月）に改版された説明書です。NEAC シリーズ 2200 用としては「ライブラリー・プログラム説明書」No.1(昭和 46 年 11 月)、No.2(昭和 47 年 11 月)、No.3(昭和 49 年 3 月)、No.4(昭和 50 年 3 月)の 4 分冊が発行されました。SSL に収められているプログラムは、

- (1) 数値計算用の汎用的なサブルーチン
- (2) 統計計算用の汎用的なサブルーチン
- (3) 特定分野のサブルーチン
- (4) その他

に分類されていました。読者の中には、これらを利用された方も大勢いらっしゃるのではないのでしょうか。

[共同利用支援係]